

平成21年度病害虫発生予報第5号

平成21年8月4日
愛知県

1 普通作物

いもち病（葉いもち）は、7月の曇雨天の影響で、県内各地で発生が確認されています。今後の天候によっては穂いもちが発生するおそれがありますので、ほ場での発生状況を確認し、上位葉に病斑を見つけたら防除を実施しましょう。

セジロウンカの飛来を県内各地で確認していますが、その数は多くありません。ほ場での生息状況を確認して、必要に応じて防除しましょう。また、トビイロウンカの飛来および発生は現在のところ確認していません。しかし、九州・中国地方では予察灯への飛来、ほ場での発生が認められています。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので注意してください。

また、ツマグロヨコバイの発生量がやや多くなっています。今後の発生状況に注意し、早めに防除しましょう。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメやホソハリカメムシなどのカメムシ類の発生が、平年と比べ多くなっていますので注意が必要です。出穂期直前に畦畔や土手などの草刈りを行うと、カメムシ類を水田へ追い込むこととなりますので気をつけましょう。詳しくは、8月3日発表の「病害虫発生予察注意報第1号」を参考にしてください。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）の発生は、平年と比べてやや多い状況です。食害が多くなる前に早めの防除をしましょう。詳しくは7月1日発表の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）情報第1号」を参考にしてください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ平年並に推移していますが、ダイズでは白変葉が見え始めたら、早めに防除しましょう。詳しくは本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

2 果樹

ウンシュウミカンにおけるチャノキイロアザミウマの発生量は、概ね平年並になっています。第5世代成虫の平坦部での発生ピークは昨年よりやや遅めの8月7日から8月15日と予測しています。詳しくは本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参考にしてください。

ナシでは、うどんこ病およびハダニ類の発生が多くなっています。うどんこ病の発生が目立つほ場では早期落葉を防ぐために収穫後に防除を行いましょう。また、ナシヒメシクイの発生は平年並ですが、一部地域で多い所があります。果実への侵入を防ぐため、防除を実施しましょう。

ブドウでは、べと病の発生が多くなっています。樹勢を維持し早期落葉を防ぐため、防除をしましょう。

カキでは、うどんこ病の発生が多くなっています。コナカイガラムシ類の発生は平年並ですが、現在、防除適期の第2世代幼虫のふ化時期です。薬剤のかかりにくい部位に生息しているので、丁寧に防除を行いましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少ない状況が続いています。越冬世代が終わり、今後は新世代成虫が飛来します。引き続き注意しましょう。

3 野菜

アブラナ科野菜を加害するハイマダラノメイガのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところ平年並です。気温が高くなると急増することが考えられますので注意が必要です。詳しくは本日発表の「ハイマダラノメイガ情報第1号」を参考にしてください。

コナジラミ類の発生が増加する時期です。トマトではTYLCVの感染を防ぐため、育苗時、定植時にはタバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット(0.4mm以下)を設置しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は現在のところ平年並ですが、8月以降は急増する時期ですので、ほ場での発生状況に注意が必要です。

4 花き

キク（露地）白さび病の発生量は全体的にやや多い状況が続いています。今後、曇雨天が続き、気温が低めに推移した場合、発生が拡がりやすいので注意しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は例年に比べやや多い状況です。キク（露地）では例年8月以降発生が増加しますので、ほ場での発生動向に注意してください。

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	全域	7月下旬の葉いもちの発生量は やや少ない 8月の降水量は平年並	－ ±
	紋枯病	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は低い	－ －
	白葉枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は平年並	± ±
	もみ枯細菌病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は平年並	± ±
	ニカメイガ	平年並	全域	第1世代の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ± ±
	セジロウンカ	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数はやや少 ない	－ －
	トビイロウン カ	平年並	全域	7月下旬現在、発生を確認して いない	±
	ツマグロヨコ バイ	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	＋ ±
	斑点米カメム シ類	多い	全域	7月下旬の発生量は多い 予察灯における誘殺数はやや多 い	＋ ＋
	イチモンジセ セリ (イネツ トムシ)	平年並	全域	第1世代幼虫の発生量は平年並	±
	フタオビコヤ ガ (イネアオ ムシ)	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数はやや多 い	＋ ＋
	コブノメイガ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ± ±
ダイズ	ハスモンヨト ウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±

・防除対策

【イネ・ツマグロヨコバイ】

多発生の際はダントツ粒剤、スミチオン乳剤、バッサ乳剤・粉剤等の薬剤で防除し
ましょう。

【イネ・斑点米カメムシ類】

8月3日発表の「病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

【イネ・フタオビコヤガ (イネアオムシ)】

7月1日発表の「フタオビコヤガ (イネアオムシ) 情報第1号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	全域	せん定枝の胞子形成量は平年並 8月の降水量は平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺 数は平年並	± ±
ナシ	ハダニ類	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	カキノヘタムシガ	平年並	全域	第1世代幼虫による被害果率は 平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや少ない	全域	予察灯およびフェロモントラッ プにおける誘殺数は少ない ヒノキの球果量は平年並	- ±

・防除対策

【ナシ・ハダニ類】

収穫前日数に注意し、カネマイトフロアブル、スターマイトフロアブル、マイトコーネフロアブルなどの薬剤で防除しましょう。

【カキうどんこ病】

オンリーワンフロアブル、ラリー水和剤などの薬剤で防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ダイコン ハクサイ キャベツ	ハイマダラノ メイガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
キャベツ	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク（露地）	ミナミキイロアザミウマ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハスモンヨトウ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	オオタバコガ	やや多い	全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

幼虫を確認したら、直ちにスピノエース顆粒水和剤、プレオフロアブル、オルトラン水和剤などで防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月31日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年と比べ晴れる日が少ないでしょう。向こう1か月は、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：30% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月は、気圧の谷や南からの湿った空気の影響を受けて、平年と比べ晴れる日が少ないでしょう（8月1日～8月28日の晴れ日数の平年値は約18日）。

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。